

各 位

三重県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予報第5号

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネ(普通期)では、斑点米カメムシ類の発生量は**やや多**と予想されます。周辺ほ場の収穫状況に注意しながら、防除を実施してください。トビイロウンカの発生量は**平年並**、ツマグロヨコバイの発生量は**少**と予想されます。

ダイズでは、ハスモンヨトウの発生量は**多**と予想されます。白変葉が確認された場合にはすぐに防除を実施してください。吸実性カメムシ類の発生量は**平年並**と予想されます。開花期以降の薬剤散布を実施してください。

2) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は**やや多**と予想されます。1葉当たりの雌成虫寄生数が0.5頭から1.0頭程度を目安に防除してください。チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が分かりにくくなるため、丁寧な観察が必要です。黒点病、かいよう病(温州、中晩柑)の発生量は**平年並**と予想されます。

果樹共通の病害虫では、カメムシ類の発生量は**やや少**と予想されます。

農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	11
5. 気象のデータ	12
6. おしらせ	14

3) 茶

チャでは、カンザワハダニの発生量は**やや多**と予想されます。寄生葉率が高い場合は、葉裏を中心に丁寧に薬剤散布してください。チャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマの発生量は**平年並**、チャノホソガの発生時期及び発生量は**平年並**と予想されます。クワシロカイガラムシの発生時期は**やや早**、発生量は**やや少**と予想されます。炭疽病の発生量は**やや少**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、炭疽病の発生量は**やや多**と予想されます。発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分してください。

ネギでは、シロイチモジヨトウの発生量は**やや多**と予想されます。幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。

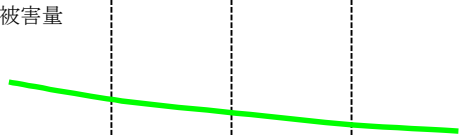
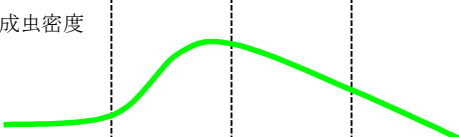
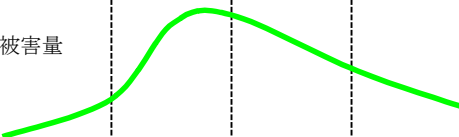
515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

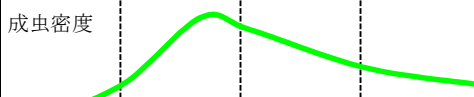
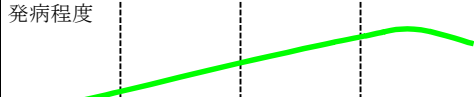
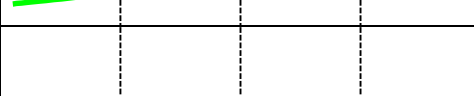
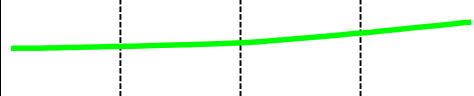
TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

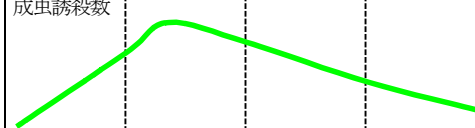
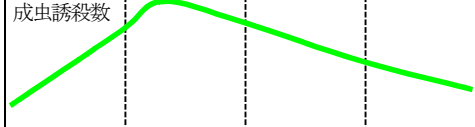
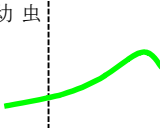
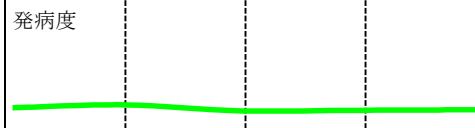
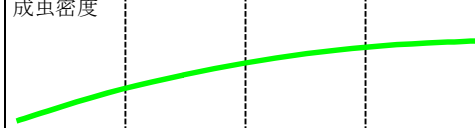
三重県病害虫防除所

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8月	9月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ(普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	中	普通					1) 病害虫発生予察注意報第2号(令和7年7月11日発表) 2) 周辺で収穫作業がある時はほ場への侵入に注意するとともに、出穂期以降の防除を実施してください。 3) 薬剤散布は出穂直後とその10日後に実施してください。 4) 広域での一斉防除が効果的です。 5) 周辺ほ場の収穫状況を考慮して、ドリフトに注意してください。
	ツマグロヨコバイ	—	少	小	低					1) 発生量が少ないので、実害は少ないと予想されます。
	トビイロウンカ	—	平年並	小	低					1) 病害虫防除技術情報第6号(令和7年8月4日発表) 2) 発生が確認された場合には速やかに防除を行ってください。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	多	大	高					1) 病害虫発生予察注意報第3号(令和7年8月20日発表)。 2) こまめにほ場を見回り、白変葉を目印として、早期発見、早期防除に努めてください。 3) 薬剤散布は若齢幼虫期に行ってください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8 月	9 月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	平年並	中	普通					1) 近年、ミナミアオカメムシによる被害粒の多発や、青立ち症状が増加しています。 2) 薬剤散布は、9 月中旬(開花 20 日後・莢伸長期)と 10 月上旬(開花 40 日後・子実肥大中期)の 2 回散布が効果的です。 3) 1 回散布の場合は、9 月下旬頃(開花 30 日後・子実肥大初期)に散布してください。 4) 移動性が高いため、広域一斉防除が効果的です。 5) エチプロール剤およびジノテフラン剤は、ミナミアオカメムシの殺虫効果が高いことが確認されています。
カンキツ	黒点病	—	平年並	中	普通					1) 乾燥が続くと樹勢の衰弱により枯枝が増加します。感染源となる枯枝の除去に努めてください。 2) 9 月は後期感染の時期なので、果実への感染防止に努めてください。
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	温州 小 中晩柑 中	温州 低 中晩柑 普通					1) 発病した夏秋梢や果実等の除去に努めてください。 2) 防風対策を行うとともに、台風の接近が予想される場合は防除をしてください。 3) ミカンハモグリガの被害痕から菌が侵入しやすいため、高接樹や幼木はミカンハモグリガの防除も実施してください。
	ミカンハダニ	—	やや多	中	高					1) 秋になって急増することがあるので、発生状況をよく観察してください。 2) 1 葉当たりの雌成虫寄生数が 0.5 頭から 1.0 頭程度を目安に防除してください。 3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統の薬剤は連用せず、RAC コードの異なる薬剤でローテーション散布を行ってください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	中	普通					1) この時期の被害発生部位は果頂部で、果実肥大が緩慢になり被害が分かりにくくなるため、丁寧な観察が必要です。 2) イヌマキ、サンゴジュ等の防風垣に隣接した樹で、被害が多くなることがあります。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8 月	9 月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低		1) 例年飛来が多く見られるほ場では、ほ場内の観察をきめ細かく行ってください。 2) 大雨、強風などの後に、急にはほ場へ多数飛来することがあります。カンキツやカキほ場等では、発生状況に十分に注意してください。 3) ナシ、ブドウの有袋栽培では、袋と果実が密着すると、袋の上から加害されることがあるので注意してください。			
	炭疽病	—	やや少	小	普通		1) 防除時期は秋芽 1 から 2 葉開葉期です。 2) 三番茶期から秋番茶期にかけて増加します。 3) 降雨が続くと感染しやすくなります。降雨の前は予防剤で、降雨の後には治療剤で防除してください。 4) 治療剤 (EBI 剤など) は耐性菌が出現しやすいため、同一系統の薬剤の連用は避けてください。			
	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通		1) 薬剤がかかりにくい葉裏に生息しています。 2) 寄生葉率が高い場合は丁寧に薬剤散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。			
チャ	チャノホソガ (第4世代幼虫)	平年並	平年並	小	普通		1) 新芽開葉初期のふ化幼虫 (潜葉期、絵描き状態) を対象に防除してください。 2) 本年の発生時期は平年並と予想されます。三重県農業研究所 (茶業研究課) ホームページにフェロモントラップによる誘殺状況を掲載していますので参考にしてください。 3) ハマキムシ類の間接暴露による薬剤抵抗性の発達を避けるため、ジアシルヒドラジン系 IGR 剤 (虫 18)、ジアミド剤 (虫 28) の使用回数は年 1 回までとしてください。			

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						8 月	9 月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	小	普通					1) 新芽の先が褐変し、ひどいときは芽が硬化し発育停止します。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 秋芽の開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。
	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	中	普通					1) 萌芽期に加害されると芽の成長が止まり、褐変枯死する場合があります。 2) 晴天が続くと発生が多くなります。 3) 秋芽の萌芽期から開葉初期に防除してください。一斉防除が効果的です。
	クワシロカイガラムシ	やや早	やや少	小	普通					1) 病害虫防除技術情報第3号(令和7年7月2日発表) 2) 第2世代幼虫ふ化最盛期による予測では第3世代幼虫ふ化最盛期はやや早と予想されます(8月下旬以降)。 3) 防除適期はふ化最盛日です。 4) この時期はばらつきが大きくなるためほ場で幼虫のふ化を確認してから防除してください。 5) 天敵に影響の少ない薬剤を選択してください。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	中	普通					1) 発病株は感染源となるため、周辺株も含めて速やかに除去し、ほ場外に持ち出して適切に処分してください。 2) 病原菌を含む水滴の跳ね返りによって感染が拡大します。水滴が跳ね返らないよう丁寧に灌水を行ってください。 3) 薬剤による予防防除を徹底してください。葉かき作業後や降雨、台風等の前後は特に重点的に防除してください。 4) 薬剤耐性菌を生ずる恐れがあるため、同一系統薬剤の連用は避けてください。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや多	中	普通					1) 病害虫防除技術情報第7号(令和7年8月14日発表) 2) 幼虫の発生は8から10月に多くなります。 3) 幼虫は老齢になるに従って薬剤の効果が低下します。早期発見に努め、若齢のうちに防除してください。 4) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統の薬剤の連用は避けてください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ (普通期)	斑点米カメムシ類	—	やや多	要因 1 か月予報(8月14日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想(＋) - 予察灯(水田・松阪市、7月第3半旬から8月第2半旬・松阪市)での誘殺数は、イネカメムシ12頭(平年44.8頭)と少、クモヘリカメムシ11頭(平年8.3頭)とやや多、ミナミアオカメムシ39頭(平年16.6頭)と多(±) - 巡回調査ほ場(7月第5週から8月第2週・早期水稻)では、すくい取り調査による斑点米カメムシ類の発生ほ場率は35.9%(平年32.6%)とやや多、虫数は1.3頭(平年1.8頭)とやや少(±) - 一般ほ場では、発生量はやや少から多(概して平年並)(±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件から引き続き予想発生量はやや多と考えます。
	ツマグロヨコバイ	—	少	要因 1 か月予報(8月14日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想(＋) - 予察灯(畑・松阪市、7月第3半旬から8月第2半旬)での誘殺数は142頭(平年1,135頭)と少(－) - 巡回調査ほ場(7月第5週から8月第2週)では、払い落とし調査による発生ほ場率は16.5%(平年36.7%)と少、成幼虫数は1.2頭(平年3.9頭)と少(－) - 一般ほ場では、発生量は無から少(概して少)(－) 考察:現状の発生量は少と考えられ、引き続き予想発生量は少と考えます。
	トビイロウンカ	—	平年並	要因 1 か月予報(8月14日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想(＋) - 予察灯での誘殺数は、紀北町(7月第1半旬から第6半旬)4頭(平年2.4頭)とやや多、畑・松阪市(7月第3半旬から8月第2半旬)1頭(平年4.2頭)とやや少、御浜町、伊賀市、水田・松阪市では8月14日時点で未飛来(±) - 巡回調査ほ場(7月第5週から8月第2週)では、発生ほ場率0%(平年0%)、払い落とし成虫数0頭(平年0頭)といずれも平年並に無(－) - 一般ほ場では、発生量は無(－) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、予想発生量は平年並と考えます。
ダイズ	ハスモンヨトウ	—	多	要因 1 か月予報(8月14日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想(＋) - フェロモントラップ(松阪市、7月第3半旬から8月第2半旬)では、933頭(平年502頭)と多(＋) - 巡回調査ほ場(7月第5週から8月第2週)では、葉食害度(シロイチモジヨトウ含む)2.4(平年0.52)と多、白変葉か所数0.42か所/a(平年0.60か所/a)とやや少(±) - 一般ほ場では、発生量は無からやや少(概して少)(－) 考察:フェロモントラップの誘殺状況及び巡回調査ほ場の調査結果から現状の発生量は多と考えられ、引き続き予想発生量は多と考えます。

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
ダイズ	吸実性カメムシ類	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (＋) 2) 予察灯(畑・松阪市、7 月第 3 半旬から 8 月第 2 半旬)での誘殺数は、ミナミアオカメムシ 178 頭(平年 63.3 頭)と多、イチモンジカメムシ 52 頭(平年 93.8 頭)とやや少、ホソハリカメムシ 3 頭(平年 39.5 頭)と少(±) 3) 大豆巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)では、25 株当たり寄生虫数 0 頭(平年 0.28 頭)とやや少 (－) 4) 水稻巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)では、すくい取り調査によるミナミアオカメムシ発生ほ場率 2.9%(平年 3.7%)とやや少、虫数 0.04 頭(平年 0.07 頭)と少(－) 5) 一般ほ場では、発生量は、無から少(概して少) (－) 考察:現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の天候により平年並と考えます。
カンキツ	黒点病	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (－) 2) 県予察ほ(8 月上旬、興津早生、無防除)では、果実発病度 36.2(平年 59.3)と少 (－) 3) 巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)では、果実発病度 0.49(平年 1.3)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少から平年並 (概して平年並)(±) 考察:一般ほ場の結果を重視して現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
	かいよう病	—	温州 平年並 中晩柑 平年並	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (－) 2) 県予察ほ(8 月上旬、新甘夏、無防除)では、新葉発病葉率 0%(平年 5.1%)と少、発病果率 1.7%(平年 21.8%)と少 (－) 3) 巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)のうち、温州みかんでは春葉発病度 0.06(平年 0.03)と多、果実発病度 0(平年 0)と平年並 (＋) 4) 巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)のうち、中晩柑では春葉発病度 0.53(平年 1.8)と少、果実発病度 0.47(平年 0.95)と少 (－) 5) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:温州みかんおよび中晩柑の現状の発生量はいずれも一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (±) 2) 県予察ほ(8 月上旬、興津早生)では、100 葉当り寄生頭数は慣行防除区で 2.2 頭(平年 15.2 頭)と少、無防除区で 11.1 頭(平年 4.0 頭)と多 (±) 3) 巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)では、春葉における寄生葉率 5.1%(平年 4.0%)とやや多、寄生虫数 0.28 頭／葉(平年 0.27 頭／葉)と平年並 (+) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並からやや多 (+) 考察:現在の発生量はやや多と考えられ、引き続き予想発生量はやや多と考えます。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (+) 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ(8 月上旬、ネーブル、無防除)では、誘殺数 4.1 頭／日(平年 6.1 頭)とやや少 (－) 3) 県予察ほ(8 月上旬、ネーブル、無防除)では、100 果当り寄生虫数 0.0 頭(平年 2.4 頭)と少 (－) 4) 巡回調査ほ場(7 月第 5 週から 8 月第 2 週)では、被害果率 3.1%(平年 0.6%)と多 (+) 5) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えられ、今後の気象条件から予想発生量はやや多と考えます。
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (+) 2) 予察灯(御浜町、7 月下旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 6 頭(平年 4,628 頭)、ツヤアオカメムシ 5 頭(平年 108 頭)といずれも少 (－) 3) 予察灯(畑・松阪市、7 月第 3 半旬から 8 月第 2 半旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ 38 頭(平年 973 頭)、ツヤアオカメムシ 2 頭(平年 170 頭)といずれも少 (－) 4) フェロモントラップ(御浜町、7 月下旬)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は 0 頭(平年 989 頭)と少(－) 5) フェロモントラップ(7 月第 2 週から 8 月第 1 週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)で 9 頭(平年 1,904 頭)、中間地(津市白山町二本木)で 4 頭(平年 2,189 頭)、平坦地(松阪市嬉野川北町)で 1 頭(平年 1,000 頭)といずれも少 (－) 6) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察:現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件から予想発生量はやや少と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	炭疽病	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (—) 2) 巡回調査ほ場(8 月第 2 週)では、発病葉数 0.6 枚/㎡(平年 0.7 枚/㎡)と平年並 (±) 3) 一般ほ場では、発生量はやや少 (—) 考察:現在の発生量は一般ほ場の状況を重視してやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
	カンザワハダニ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (±) 2) 県予察ほ(亀山市、7 月中旬から 8 月上旬)では、寄生葉率 1.9%(平年 1.1%)と多、寄生頭数 0.04 頭/葉(平年 0.03 頭/葉)とやや多 (+) 3) 巡回調査ほ場(8 月第 2 週)では、寄生葉率 1.9%(平年 1.1%)と多、寄生頭数 0.04 頭/葉(平年 0.03 頭/葉)とやや多 (+) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられますが、県予察ほや巡回調査ほ場の結果を重視して予想発生量はやや多と考えます。
	チャノホソガ (第4世代幼虫)	平年並	平年並	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (発生時期—、発生量+) 2) 県予察ほ(亀山市)では、第 3 世代成虫のフェロモントラップ誘殺ピークは 7 月第 3 半旬(平年 7 月第 2.8 半旬)と平年並 (発生時期±) 3) 県予察ほフェロモントラップ(7 月第 3 半旬から 8 月第 2 半旬)では、誘殺数 5.5 頭(平年 1,544.3 頭)と少 (—) 4) 巡回調査ほ場(8 月第 2 週)では、巻葉数 0 枚/㎡(平年 0.8 枚/㎡)と少 (—) 5) 一般ほ場では、発生量はやや少 (—) 考察:発生時期は平年並、現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。
	チャノミドリヒメヨコバイ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (+) 2) 県予察ほ黄色粘着トラップ(亀山市、7 月第 3 半旬から 8 月第 2 半旬)では、捕殺数 22.2 頭(平年 34.1 頭)と平年並の傾向 (±) 3) 巡回調査ほ場(8 月第 2 週)では、叩き落とし虫数 1.8 頭(平年 1.0 頭)と多 (+) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量は平年並と考えられ、引き続き予想発生量は平年並と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノキイロアザミウマ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (＋) 2) 県予察は黄色粘着トラップ(亀山市、7 月第 3 半旬から 8 月第 2 半旬)では、捕殺数 459.6 頭(平年 1,086.0 頭)とやや少の傾向 (－) 3) 巡回調査ほ場(8 月第 2 週)では、叩き落とし虫数 6.8 頭(平年 3.4 頭)と多 (＋) 4) 一般ほ場では、発生量はやや少 (－) 考察:現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量は平年並と考えます。
	クワシロカイガラムシ	やや早	やや少	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (発生時期－、発生量＋) 2) 県予察ほ場(亀山市)の第 2 世代幼虫ふ化最盛期は 7 月 14 日(平年 7 月 17 日)とやや早 (発生時期－) 3) 巡回調査ほ場(8 月第 2 週)では、雄繭寄生株率 4.1%(平年 9.2%)と少、雌成虫寄生株率 3.2%(平年 5.4%)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量はやや少 (－) 考察:今後の気象条件と県予察ほ場の結果から、予想発生時期はやや早と考えます。現状の発生量はやや少と考えられ、引き続き予想発生量はやや少と考えます。
イチゴ	炭疽病	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (＋) 2) 巡回調査ほ場(8 月第 1 から 2 週、育苗床)では、発病株率 0.5%(平年 0.1%)と多 (＋) 3) 一般ほ場では、発生量はやや少から平年並(概して平年並) (±) 考察:現状の発生量は一般ほ場の状況を重視して平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(8 月 14 日発表)によると、気温は高く、降水量は少ない予想 (＋) 2) 県予察はフェロモントラップ(松阪市、7 月第 4 半旬から 8 月第 3 半旬)では、誘殺数は 151 頭(平年 81.3 頭)と多 (＋) 3) 巡回調査ほ場(8 月第 1 から 2 週)では、白ネギの被害株率 1.3%と、過去 8 年平均の被害株率 0.3%の 4.3 倍 (＋) 4) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察:現状の発生量は一般ほ場の状況を重視して平年並と考えられますが、今後の気象条件及びフェロモントラップの誘殺状況を考慮して予想発生量はやや多と考えます。

4. 予察項目の見方

1)「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早			平年並			やや遅			遅			

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

	平年値 ↓					
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」が平年並の発生

量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除は場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半のほ場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2)「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

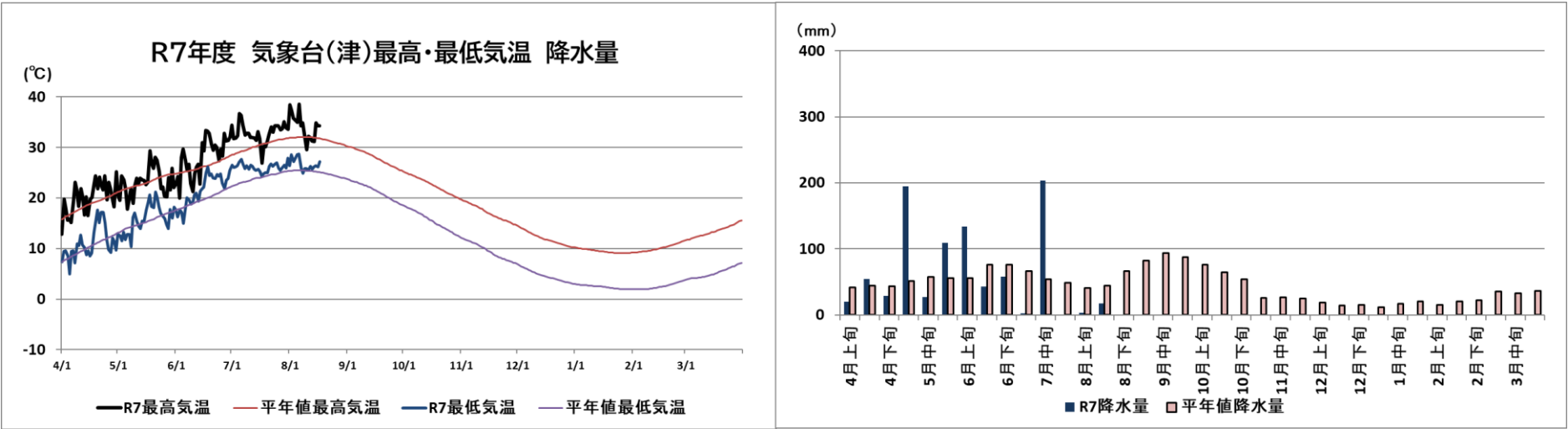
東海地方 1 か月予報 (令和 7 年 8 月 14 日名古屋地方気象台発表)

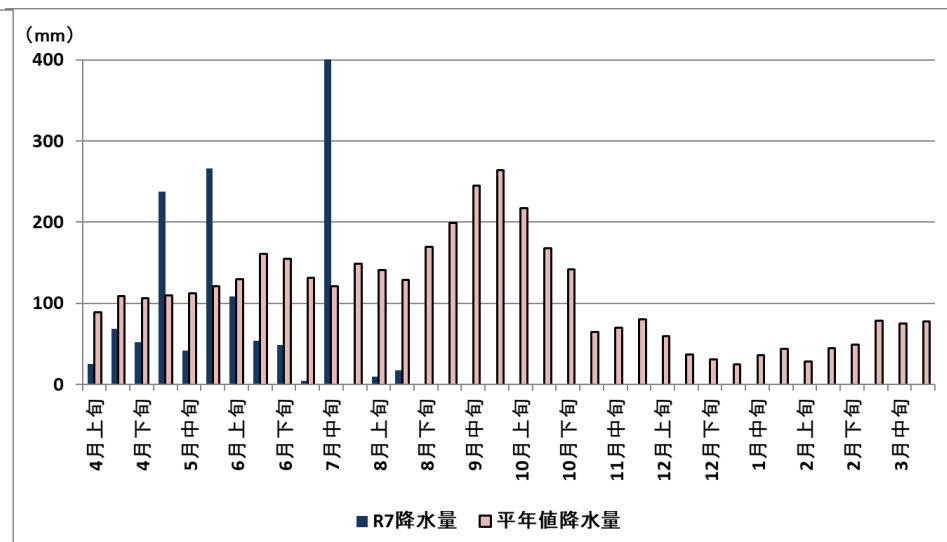
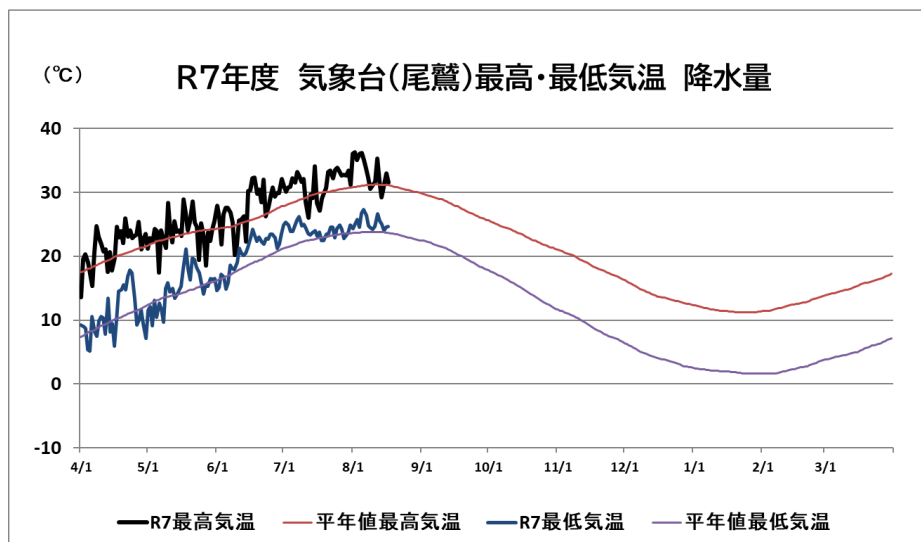
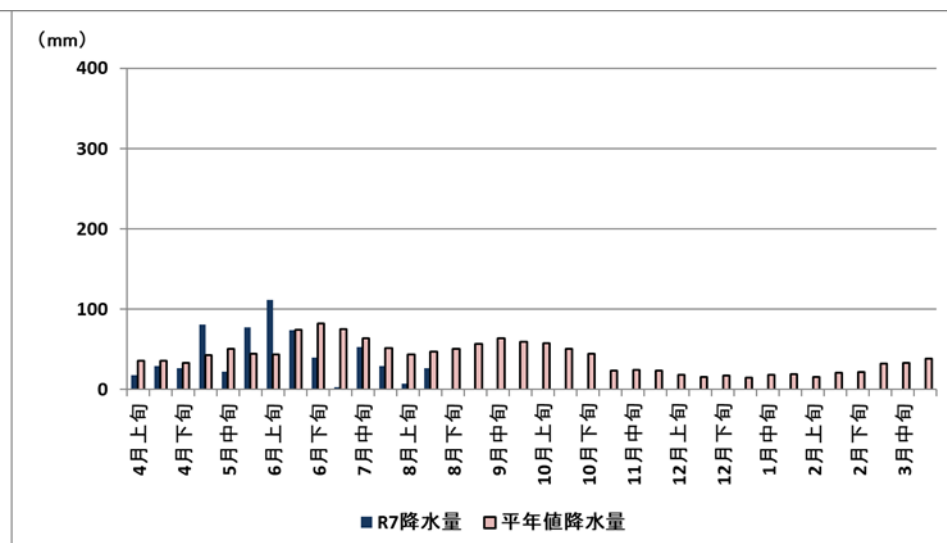
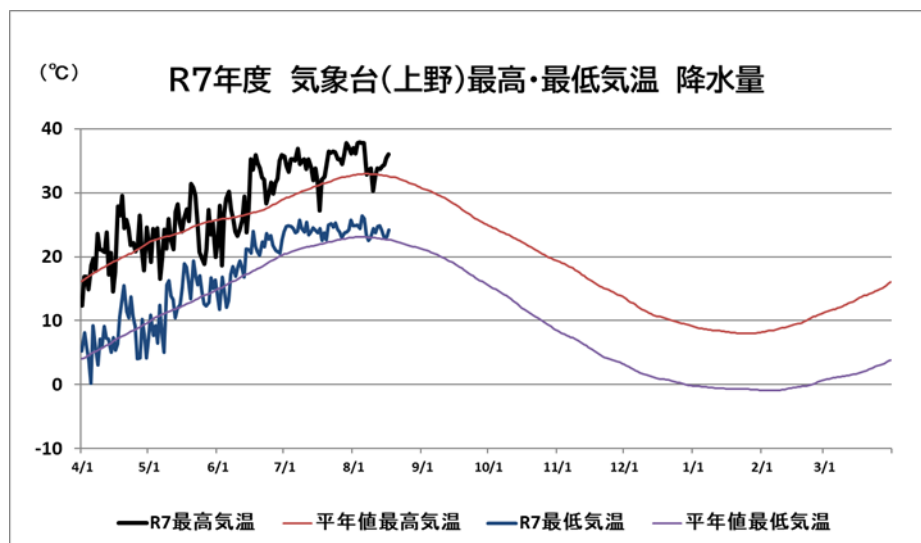
東海地方では、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。期間の前半はかなり高い見込みです。

太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は少なく、日照時間は多いでしょう。

1 週目 8 月 16 日から 22 日	太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
2 週目 8 月 23 日から 8 月 29 日	太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
3 から 4 週目 8 月 30 日から 9 月 12 日	太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

気象の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成) (8 月 17 日まで)





6. おしらせ（前回と異なる項目には **NEW** の印があります）

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生がないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月24日(木)(済み)	第2回	5月22日(木)(済み)
第3回	6月19日(木)(済み)	第4回	7月23日(水)(済み)
第5回	8月21日(木)(今回)	第6回	10月17日(金)
第7回	3月19日(木)		

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただけると幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。

下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001134365.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたことを「掲載通知」として電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/mie>

農林水産省の「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。農産物安全・流通課ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<https://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>